

平成31年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年8月3日

上場会社名 日特エンジニアリング株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6145 URL <http://www.nittoku.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 近藤 進茂  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 藤田 由実子 (TEL) 048(837)2011  
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績(平成30年4月1日~平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	6,946	28.6	823	20.5	853	22.2	576	17.2
30年3月期第1四半期	5,401	10.6	683	58.6	698	39.3	491	40.9

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 443百万円(△35.3%) 30年3月期第1四半期 685百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	31.90	—
30年3月期第1四半期	27.23	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第1四半期	37,642	26,488	70.1
30年3月期	37,585	26,284	69.8

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 26,369百万円 30年3月期 26,221百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前連結会計年度の総資産及び自己資本比率については、当該会計基準等を遡って適用した後の数字となっています。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	14.00	—	16.00	30.00
31年3月期	—	—	—	—	—
31年3月期(予想)	—	15.00	—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日~平成31年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	15,600	2.0	1,600	△34.9	1,610	△34.4	1,050	△39.0	58.11
通期	33,000	7.5	4,450	10.7	4,480	10.3	3,250	1.5	179.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名) 美瑪特電子科技(常州)有限公司(中国)、除外 1社(社名) —

(注) 当第1四半期連結会計期間より、重要性が増した美瑪特電子科技(常州)有限公司(中国)を連結の範囲に含めていません。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数(四半期累計)

31年3月期1Q	18,098,923株	30年3月期	18,098,923株
31年3月期1Q	31,244株	30年3月期	31,244株
31年3月期1Q	18,067,679株	30年3月期1Q	18,067,954株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、各国間の貿易摩擦に起因した通商交渉が激しくなるなど不透明感が解消されることのない状況が続きましたが、IoT、AI、ロボットを含めインテリジェント化、スマート化といった変革や進化が強く求められる高度な技術分野においては、多額の投資が向けられることは明らかな状況であるといえます。

これらの技術分野においては、さまざまなアイデアやソフトが登場し脚光を浴び、それらを具現化するハードやデバイスにおいても新たな開発が求められるようになり、さらにそれらハードやデバイスの高性能化、高品質化、微細化を可能にする生産技術、設備開発の高度化も必要となっています。そしてこうした分野に関わるメーカーは、スピーディーなラインの構想や開発、ライン立上げの短縮化や省人化を含めた高効率生産に収益性向上、競争優位性を求めるようになりました。

かかる状況の中、当社グループはこれらメーカーの上流にポジションを置き、コア事業としてカスタマイズ生産ライン設備の開発、製造に経営資源を投入し、グローバル人材開発、ビジネスパートナーの増強、オープンイノベーションを中心としたアライアンスの強化などの戦略展開を行ってきました。その中でも特に、モジュール品の組立てまでを行うFAトータルラインへと領域を広げることに注力し巻線機業界、FA業界の中での差別化を図っています。この差別化によって、近時、不透明感の漂う経済環境の中で高品質生産、高効率生産に投資を絞るメーカーへのソリューションが可能となり、当社個別ベース第1四半期の受注高としては過去最高であった前年同期の78億90百万円を超える、また、四半期ベース受注では過去最高の平成29年3月第3四半期の120億81百万円に次ぐ90億36百万円を計上しました。

これらの結果、売上高は69億46百万円（前年同期比28.6%増）、営業利益は8億23百万円（前年同期比20.5%増）、経常利益は8億53百万円（前年同期比22.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億76百万円（前年同期比17.2%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### (ワインディングシステム&メカトロニクス事業)

コイルは、電気を利用するために欠くことのできないコア部品ですが、特に近年のさまざまな製品の電子化により、各種IC搭載部品、高性能小型カメラ、センサー、GPS、スピーカ、高周波通信、ワイヤレス受給電、ノイズフィルタなどの精密コイル需要は爆発的に増加しました。これらの多くは、スマートフォン、電子端末、パソコンなど情報通信業界で開発されてきたコイルですが、近時、自動車業界での自動運転、安全運転に不可欠なものとなっています。当社の業界別実績では、情報通信業界に属する一部の顧客が自動車業界へ部品やモジュールの販売を展開しています。直近の数ヶ月間では、スマートフォン需要の落ち込みが電子部品業界にダメージを与えているという観測もありますが、精密コイル需要は自動車業界で急拡大していると考えられます。

また、クリーンエネルギー社会に向けて、EVモータ、電動二輪車用モータ、ロボットやドローン用等の駆動モータの需要が世界的に増加してきました。

加えて、全業界で生産に係る人件費の上昇や労働力不足対策、また、高品質の確保、生産性向上といった人によるモノ作りから設備によるモノ作りへの移行、さらに、安全対策も目的とする工場の無人化などの理由から一貫生産ラインの導入が進んでいることも当社グループには追い風となりました。

これらの結果、全売上高の約97%を占めるワインディングシステム&メカトロニクス事業におきましては、連結売上高は67億44百万円（前年同期比34.3%増）、セグメント利益（営業利益）は10億57百万円（前年同期比29.7%増）となりました。なお、当社個別ベースでの受注高は88億31百万円（前年同期比18.8%増）、売上高（生産高）は55億82百万円（前年同期比22.9%増）、当第1四半期末の受注残高は200億34百万円（前年同期比22.5%増）となりました。

#### (非接触ICタグ・カード事業)

当第1四半期連結累計期間では、当社従来製品の生産管理用ICタグに一服感があり、受注、売上とも減少しました。

これらの結果、非接触ICタグ・カード事業におきましては、連結売上高は2億2百万円（前年同期比46.7%減）、セグメント利益（営業利益）は6百万円（前年同期比93.9%減）となりました。なお、当社個別ベースでの受注高は2億4百万円（前年同期比55.4%減）、売上高（生産高）は2億2百万円（前年同期比46.7%減）、当第1四半期末

の受注残高は1億88百万円（前年同期比60.4%減）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### ①資産

流動資産は前連結会計年度末対比2億18百万円増加し、295億76百万円となりました。これは主として、受取手形及び売掛金が2億94百万円、仕掛品が6億1百万円増加し、現金及び預金が5億2百万円減少したことによります。

固定資産は前連結会計年度末対比1億61百万円減少し、80億65百万円となりました。

この結果、資産合計は前連結会計年度末対比56百万円増加し、376億42百万円となりました。

### ②負債

流動負債は前連結会計年度末対比2億32百万円減少し、105億80百万円となりました。これは主として、未払法人税等が4億91百万円、賞与引当金が1億58百万円減少し、その他（未払費用）が4億73百万円増加したことによります。

固定負債は前連結会計年度末対比85百万円増加し、5億73百万円となりました。これは主として、繰延税金負債が75百万円増加したことによります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末対比1億47百万円減少し、111億54百万円となりました。

### ③純資産

純資産合計は、前連結会計年度末対比2億4百万円増加し、264億88百万円となりました。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期通期の業績予想につきましては、平成30年5月11日に公表したとおりです。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,929,681	12,426,775
受取手形及び売掛金	7,363,066	7,657,766
有価証券	400,120	501,580
仕掛品	6,823,799	7,425,691
原材料及び貯蔵品	724,903	906,896
その他	1,157,120	693,316
貸倒引当金	△40,630	△35,158
流動資産合計	29,358,061	29,576,869
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,954,232	1,931,825
機械装置及び運搬具(純額)	564,735	556,205
土地	700,297	740,891
その他(純額)	370,608	569,388
有形固定資産合計	3,589,873	3,798,310
無形固定資産		
のれん	18,848	15,078
その他	150,063	160,031
無形固定資産合計	168,911	175,110
投資その他の資産		
投資有価証券	3,516,251	3,143,601
繰延税金資産	58,089	41,533
その他	894,579	907,269
投資その他の資産合計	4,468,921	4,092,404
固定資産合計	8,227,706	8,065,825
資産合計	37,585,767	37,642,694

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,850,385	2,738,959
電子記録債務	4,192,111	4,121,079
未払法人税等	668,724	177,235
賞与引当金	512,853	354,715
その他	2,589,604	3,188,787
流動負債合計	10,813,678	10,580,777
固定負債		
繰延税金負債	131,506	206,793
退職給付に係る負債	151,289	161,599
その他	204,941	204,941
固定負債合計	487,737	573,334
負債合計	11,301,415	11,154,111
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,884,928	6,884,928
資本剰余金	2,542,054	2,535,775
利益剰余金	15,297,353	15,600,769
自己株式	△25,267	△25,267
株主資本合計	24,699,068	24,996,205
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,059,398	935,459
為替換算調整勘定	519,290	490,125
退職給付に係る調整累計額	△56,666	△52,008
その他の包括利益累計額合計	1,522,022	1,373,576
非支配株主持分	63,261	118,800
純資産合計	26,284,352	26,488,582
負債純資産合計	37,585,767	37,642,694

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	5,401,030	6,946,786
売上原価	3,716,705	5,039,395
売上総利益	1,684,325	1,907,391
販売費及び一般管理費	1,001,193	1,083,987
営業利益	683,131	823,403
営業外収益		
受取配当金	14,946	18,628
為替差益	—	24,054
その他	31,974	20,341
営業外収益合計	46,920	63,024
営業外費用		
為替差損	15,685	—
固定資産売却損	13,886	24,052
その他	2,176	8,789
営業外費用合計	31,748	32,842
経常利益	698,304	853,586
特別利益		
投資有価証券売却益	25,107	—
特別利益合計	25,107	—
税金等調整前四半期純利益	723,412	853,586
法人税、住民税及び事業税	145,591	120,276
法人税等調整額	82,039	138,910
法人税等合計	227,630	259,187
四半期純利益	495,781	594,398
非支配株主に帰属する四半期純利益	3,821	17,990
親会社株主に帰属する四半期純利益	491,959	576,407



## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	495,781	594,398
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	127,924	△123,938
為替換算調整勘定	59,121	△31,719
退職給付に係る調整額	2,931	4,657
その他の包括利益合計	189,978	△151,000
四半期包括利益	685,759	443,397
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	681,347	427,727
非支配株主に係る四半期包括利益	4,412	15,669

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	ワイディングシステム &メカトロニクス事業	非接触ICタグ・カード 事業	
売上高			
外部顧客への売上高	5,021,370	379,660	5,401,030
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	5,021,370	379,660	5,401,030
セグメント利益	815,888	114,999	930,887

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	930,887
全社費用(注)	△247,756
四半期連結損益計算書の営業利益	683,131

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

## Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	ワイディングシステム &メカトロニクス事業	非接触ICタグ・カード 事業	
売上高			
外部顧客への売上高	6,744,523	202,263	6,946,786
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	6,744,523	202,263	6,946,786
セグメント利益	1,057,944	6,971	1,064,915

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,064,915
全社費用(注)	△241,511
四半期連結損益計算書の営業利益	823,403

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。